



TITLE:

表紙・投稿規定・プレプリント・  
編集後記・目次・裏表紙ほか

AUTHOR(S):

---

CITATION:

表紙・投稿規定・プレプリント・編集後記・目次・裏表紙ほか. 物性  
研究 1971, 17(2): 176-190

ISSUE DATE:

1971-11-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/88361>

RIGHT:

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可  
昭和46年11月20日発行 (毎月1回20日発行)  
物性研究 第17巻 第2号

vol. 17 no. 2

# 物性研究

1971 | 11



1. 本誌は、物性物理の研究を共同で促進するため、研究者がその研究意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文・研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、情報などです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集者が本紙に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上でprivate communication 扱いにして下さい。

### 投稿規定

1. 雑誌のページ数を節約するため原稿は極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は400字詰原稿用紙を使用して下さい。
3. 数式、記号の書き方はProgress, Journalの投稿規定に準じ、ミスプリントが生じないように適当な処置をとって下さい。  
上ツキ、下ツキは特に紛わしいもののみを指定して下さい。  
英字の大、花文字、ギリシャの指定を忘れないように、oとaと0(ゼロ)、uとnとrr、eとe、l(エル)と1(イチ)、xと×(カケル)、uとv等が一番間違いやすい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図の縮尺、拡大は致しません。一頁以内に入らない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけさけるようにして下さい。
8. 別刷が入用な場合は、投稿の際に所要部数を10部単位で申込んで下さい。別紙代は下記方式により、現金で納入していただきます。

(郵券による受付はいたしません。)

p : 物研出来上り頁数

x : 別刷所要部数

a : 別刷一頁の代金 1円

b : 製本代(別刷一部につき) 10円

別刷代 = (a p + b) x + 送料

別刷代金は別刷を受取ってから、1ヶ月以内に納めて下さい。それより遅れた場合には遅滞追徴金を請求されることがありますから、御注意下さい。

9. 原稿締切日は毎月20日で原則として次月発行誌に掲載されます。

1. 本誌は、物性物理の研究を共同で促進するため、研究者がその研究意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文・研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、情報などです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集者が本紙に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上でprivate communication 扱いにして下さい。

### 投稿規定

1. 雑誌のページ数を節約するため原稿は極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は400字詰原稿用紙を使用して下さい。
3. 数式、記号の書き方はProgress, Journalの投稿規定に準じ、ミスプリントが生じないように適当な処置をとって下さい。  
上ツキ、下ツキは特に紛わしいもののみを指定して下さい。  
英字の大、花文字、ギリシャの指定を忘れないように、oとaと0(ゼロ)、uとnとrr、eとe、l(エル)と1(イチ)、xと×(カケル)、uとv等が一番間違いやすい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図の縮尺、拡大は致しません。一頁以内に入らない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけさけるようにして下さい。
8. 別刷が入用な場合は、投稿の際に所要部数を10部単位で申込んで下さい。別紙代は下記方式により、現金で納入していただきます。

(郵券による受付はいたしません。)

p : 物研出来上り頁数

x : 別刷所要部数

a : 別刷一頁の代金 1円

b : 製本代(別刷一部につき) 10円

別刷代 = (a p + b) x + 送料

別刷代金は別刷を受取ってから、1ヶ月以内に納めて下さい。それより遅れた場合には遅滞追徴金を請求されることがありますから、御注意下さい。

9. 原稿締切日は毎月20日で原則として次月発行誌に掲載されます。

## プレプリント案内

〔早大・理工・斉藤研〕

- G. L. Lamb, Jr. M. O. Scully and F. A. Hopf,  
Higher Conservation Laws for Coherent Optical Pulse Propagation  
in an Inhomogeneously Broadened Medium.
- G. L. Lamb,  
Analytical Descriptions of Ultrashort Optical Pulse Propagation in a  
Resonant Medium.
- Maurice L. Huggins,  
A New Treatment of Polymer Solution Thermodynamics.
- Richard S. Stein,  
The Photo-Optics of Polymers.
- W. H. Stockmayer,  
Shapes of Flexible Chain Molecules.
- A. Peterlin,  
Molecular Mechanics of Chain Rupture in Strained Crystalline Polymers.
- F. A. Bovey,  
The Study of the Solution Conformations of Polypeptides and Oligopeptides  
by High-Resolution N. M. R. Spectroscopy.
- R. L. Jernigan,  
Internal Dielectric Relaxation in Short Chains Bearing Terminal Polar  
Groups.
- Warner L. Peticolas,  
Raman Scattering from Biological Polymers.

- S. S. Sternstein and G. M. Lederle,  
The Micromechanics of Elastomer Networks.
- John D. Ferry,  
Viscoelastic Properties of Dilute Solutions over an Extended Frequency Range.
- Yasuaki Hiwatari and Hirotugu Matsuda,  
Ideal Three-Phase Model and the Melting of Molecular Crystal and Metals.
- Hideo Suzuki, Naosada Takizawa and Toshiro Komatsu,  
On the Optical Properties of All-trans Carotenoids.
- Sadato Yabuki, Motohiro Fuke and Akiyoshi Wada,  
The Fine Structures in Melting Curves of Deoxyribonucleic Acid of Bacteriophage Lambda.
- Shizuo Hayashi,  
A Molecular Theory of Viscosity of Dilute Polymer Solutions.
- Tadahira Asada, Junichi Sasada and Shigeharu Onogi,  
Pheo-Optical Studies of High Polymers. XX. The Deformation Process and Crystal Transformation in Polybutene-1.
- Akiyoshi Wada and Hiroshi Kihara,  
Dielectric Study on the Flexural Rigidity of the  $\alpha$ -Helix.
- Hiroshi Fujita and Akio Teramoto,  
Dimensional Changes of Polypeptide Molecules in the Helix-Coil Transition Region.
- Michio Kurata,  
Phenomenological Aspects of Entanglement Coupling.

- Kunihiro Osaki,  
Viscoelastic Properties of Solutions of Linear and Star-Shape Branched Polybutadienes at Infinite Dilution.
- Akiyoshi Wada, Toyochi Tanaka and Hiroshi Kihara,  
Dielectric Dispersion of the  $\alpha$ -Helix at the Transition Region to Random Coil.
- Kazuo Nagai,  
Theory of Light Scattering by an Isotropic System Composed of Anisotropic Units with Application to the Porod-Kratky Chain.
- Akio Nakajima, Seiji Tanaka and Toshio Hayashi,  
Chain Conformations of Polypeptide Copolymers.
- Hiroyuki Tadokoro,  
Structurel Studies of Several Crystalline Polymers.
- Hiromichi Kawai, Toshiichi Soen, Takashi Inoue, Takashi Ono and Takanori Uchida,  
Domain Formation Mechanism of Block and Graft Copolymers from Their Solutions.

( 久保研 )

- Fumiaki Shibata, Kazushige Machida, Chuya Inoue  
Localized magnetic states in Superconductor
- Masuo Suzuki  
On the Temperature-Dependence of "Effective Critical Exponents"  
and Confluent Singularities

- B. U. Felderhof  
Time-Dependent Statistics of Binary Linear Lattices
- B. U. Felderhof  
Statistics of Clusters in Binary Linear Lattices
- J. Chihara, K. Sasaki, Y. Obata  
Equivalence of Three Kinetic Methods of Calculating the Space-Time Correlation Function
- Junzo Chihara  
A Generalization of the Hartree Approximation and the Quantal Space-Time Correlation Function
- Masuo Suzuki  
Rigorous Results for Ising Ferromagnets of General Spin with Degeneracy of Symmetric Potentials
- Vinod K. S. Shante and Scott Kirkpatrick  
An Introduction to Percolation Theory
- H. J. Hilhorst, M. Suzuki and B. U. Felderhof  
Kinetics of the Stochastic Ising Chain in a Two-Flip Model
- Shozo Takeno and Masaki Goda  
A Theory of Phonon-Like Excitations in non-Crystalline
- O. E. Lanford III  
Approach to Equilibrium of Free Quantum Systems
- H. Basry and J. Kubar-Andre  
Galilean Invariance and Magnetic Monopoles



- Hiroshi Furukawa and Yoshiki Kuramoto  
A Soluble Model Showing the Liquid-Liquid Transition
- R. Comes and G. Shirane  
Neutron Scattering Analysis of the Linear Desplacement Correlations  
in  $\text{KTaO}_3$

〔東大教養物理〕

Bibliography of Plasma Physics Laboratory Reports and Publications  
(PLASMA PHYSICS LABORATORY)

### 掲示板

#### 基研短期研究会 “Coherent State の理論” 開催のおしらせ

期 日： 昭和 47 年 2 月 2 月 14 日～16 日（3 日間）

場 所： 基 研

主 旨： 1963 年頃より Glauber などの手によって発展してきた coherent state の理論が、近年統計光学ばかりでなく、広く物性物理一般に応用されるようになり、とくに相転移の理論に対するその有効性が注目され始めた。我が国の物性物理の研究者の中にも最近この理論に興味をもつ方々が多くなっているの、関心のある研究者が問題を提起し合いながら討論を行ない、今後の研究に対する相互の stimulation を得、かつより具体的な方向を見定めたい。

具体的方針： 初回のことであるから、多少勉強会的色彩が強くなるのは止むを得ないし、それで十分意義はあると考えるが、散漫になることは避けたく、また予算の関係もあるので、今回は相転移の理論への

- Hiroshi Furukawa and Yoshiki Kuramoto  
A Soluble Model Showing the Liquid-Liquid Transition
- R. Comes and G. Shirane  
Neutron Scattering Analysis of the Linear Desplacement Correlations  
in  $\text{KTaO}_3$

〔東大教養物理〕

Bibliography of Plasma Physics Laboratory Reports and Publications  
(PLASMA PHYSICS LABORATORY)

### 掲示板

#### 基研短期研究会 “Coherent State の理論” 開催のおしらせ

期 日： 昭和 47 年 2 月 2 月 14 日～16 日（3 日間）

場 所： 基 研

主 旨： 1963 年頃より Glauber などの手によって発展してきた coherent state の理論が、近年統計光学ばかりでなく、広く物性物理一般に応用されるようになり、とくに相転移の理論に対するその有効性が注目され始めた。我が国の物性物理の研究者の中にも最近この理論に興味をもつ方々が多くなっているの、関心のある研究者が問題を提起し合いながら討論を行ない、今後の研究に対する相互の stimulation を得、かつより具体的な方向を見定めたい。

具体的方針： 初回のことであるから、多少勉強会的色彩が強くなるのは止むを得ないし、それで十分意義はあると考えるが、散漫になることは避けたく、また予算の関係もあるので、今回は相転移の理論への

掲示板, ニュース, 人のうごき

coherent state 表示の応用を中心テーマとする。(「物性研究」1971年6月号 p. B50およびB67参照)。

参加申込: 参加を希望される方は上記の具体的方針をお含みの上, 昭和46年12月25日までに末記あて, 関心のあるテーマおよび研究会のさいに話していたゞけるテーマを併記の上御連絡下さい。できるだけ多数の方々に旅費が支給されるように配慮しますが, 予算上の制約のため, 申込者が多数の場合は御希望にそえないことがあると思いますので, 御了承下さい。

申込先                      札幌市北10条西8丁目  
                              北海道大学理学部物理学教室              堀              淳              一  
世話人                      堀 淳一 ・ 松原武生 ・ 松田博嗣

## ニュース

〔東大教養物理〕

◦物性コロキウム

9月17日    Positron 国際会議報告(藤原邦男)

23日    量子固体国際会議報告(生井沢)

〔広島大教養部〕

広島大学理学部物性学科の物性理論講座では助教授を1名公募している。  
担当教授は西川恭治氏で, 公募〆切は昭和46年11月15日である。

## 人のうごき

〔広島大教養部〕

広島大学理学部物性学科の物性理論講座に, 担当教授として西川恭治氏が昭和46年10月1日付で着任した。

掲示板, ニュース, 人のうごき

coherent state 表示の応用を中心テーマとする。(「物性研究」1971年6月号 p. B50およびB67参照)。

参加申込: 参加を希望される方は上記の具体的方針をお含みの上, 昭和46年12月25日までに末記あて, 関心のあるテーマおよび研究会のさいに話していたゞけるテーマを併記の上御連絡下さい。できるだけ多数の方々に旅費が支給されるように配慮しますが, 予算上の制約のため, 申込者が多数の場合は御希望にそえないことがあると思いますので, 御了承下さい。

申込先                      札幌市北10条西8丁目  
                                北海道大学理学部物理学教室              堀              淳              一  
世話人                      堀 淳一 ・ 松原武生 ・ 松田博嗣

## ニュース

### 〔東大教養物理〕

◦物性コロキウム

9月17日 Positron 国際会議報告(藤原邦男)

23日 量子固体国際会議報告(生井沢)

### 〔広島大教養部〕

広島大学理学部物性学科の物性理論講座では助教授を1名公募している。  
担当教授は西川恭治氏で, 公募〆切は昭和46年11月15日である。

## 人のうごき

### 〔広島大教養部〕

広島大学理学部物性学科の物性理論講座に, 担当教授として西川恭治氏が昭和46年10月1日付で着任した。



掲示板, ニュース, 人のうごき

coherent state 表示の応用を中心テーマとする。(「物性研究」1971年6月号 p. B50およびB67参照)。

参加申込: 参加を希望される方は上記の具体的方針をお含みの上, 昭和46年12月25日までに末記あて, 関心のあるテーマおよび研究会のさいに話していたゞけるテーマを併記の上御連絡下さい。できるだけ多数の方々に旅費が支給されるように配慮しますが, 予算上の制約のため, 申込者が多数の場合は御希望にそえないことがあると思いますので, 御了承下さい。

申込先                      札幌市北10条西8丁目  
                              北海道大学理学部物理学教室              堀              淳              一  
世話人                      堀 淳一 ・ 松原武生 ・ 松田博嗣

## ニュース

### 〔東大教養物理〕

◦物性コロキウム

9月17日 Positron 国際会議報告(藤原邦男)

23日 量子固体国際会議報告(生井沢)

### 〔広島大教養部〕

広島大学理学部物性学科の物性理論講座では助教授を1名公募している。  
担当教授は西川恭治氏で, 公募〆切は昭和46年11月15日である。

## 人のうごき

### 〔広島大教養部〕

広島大学理学部物性学科の物性理論講座に, 担当教授として西川恭治氏が昭和46年10月1日付で着任した。

## ‘71年度決算及び‘72年度予算報告

‘71年度は、収入総額101.9万円、支出総額143.8万円、差引41.9万円の支出超過となり、‘72年度への繰越金は68.2万円となりました。

しかも、16=6の刊行が遅れたことにより、印刷費、送料の支払いが‘72年度へ繰越されていますので、実質的には支出はさらに5.8万円増加して、

149.6万円となり、‘72年度への繰越金は62.4万円となるはずでした。当初予算は0.4万円程度の収入超過、ほぼ収支相等と予測していましたが、この様に41.9万円と大巾な支出超過となった原因を収入、支出の両面から検討しますと、まず支出面においては、印刷費が予算に比較して16.9万円オーバーしていまま。予算では70年度の実績程度(90頁)の刊行を見込んでいましたが実際には毎号平均114頁が刊行され、26.7%増となりました。

さらに、‘71年7月1日より郵便料金が改定されたことにより、発送通信費が予算に比較して3.5万円オーバーしたことが支出面における支出超過の原因となっています。

一方、収入面において支出超過の原因となった収入減の原因は、機関会員の入金が遅れたこと、機関会員の会員数がやゝ減ったことによるものと考えられます。商社からの入金が目立って増加しましたが、それでも予算に比較して、22.2万円の収入減となりました。仮に全ての入金が順調に行われた場合の金額が〔I〕決算及び予算(e)欄です。その他の項目については決算資料〔I〕-〔V〕を御参照下さい。

次に‘72年度予算に関しましては、‘71年度同様、毎号平均110頁の刊行に必要な経費を計上致しました。印刷費については、現在担当している印刷所が担当して以来、つまり‘67年10月以降一度も改定されないまま、‘71年度を終りましたが、今回17=1より一部改定されることになりましたので頁数に変化のないことに比較して、印刷費が増加するという結果となりました。次に人件費につきましては永年プログレスに事務処理等依頼して居りましたが、今回、専属の事務員を雇うという方向へ改善するということになりましたのでとりあえず当分の間、1ヶ月1万円で週3回程度のアルバイトを雇うことになりましたが、そのために‘71年度に比較して4.6万円増えることになりました。

た。その結果、収入総額 1 2 8.5 万円、支出総額 1 7 3.2 万円、差引 4 4.6 万円の支出超過となる見込みです。この様に 2 年連続して大巾な支出超過はなんとしても回避しなければならないと考えますが、そのための方策としては、明年 4 月以降の誌代改定等を目下検討していますので後日御報告致します。

〔1〕 決 算 及 び 予 算

収 入 の 部	(a) 1971年度予算	(b) 1971年度決算	(c) 1971年度未入金	(d) 1972年度前受金	(e) (b)+(c)-(d)	(f) 1972年度予算	(g) (f)の明細
個 人 会 員	(円) 380,160	(円) 339,447	(円) 110,960	(円) 107,820	(円) 342,587	(円) 422,400	@1920×220
機 関 会 員	795,600	549,140	185,620	45,000	689,760	738,000	@3600×205
商 社	14,400	91,680		73,040	18,640	104,400	@3600×29
海 外 会 員	10,800	0	18,000		18,000	10,800	@2400×3
預 金 利 息	40,000	38,242			38,242	10,000	@3600×1
合 計	1,240,960	1,018,509	314,580	225,860	1,107,229	1,285,600	
前 年 度 繰 越 金	1,101,459	1,101,459					

支 出 の 部	(a) 1971年度予算	(b) 1971年度決算	(c) 1972年度予算	(c) の 明 細
印 刷 費	(円) 750,000	(434,240)(円) 918,809	(円) 1,091,000	110頁12回+3.5万円
編 集 費	230,000	211,090	240,000	14000×12回+2.4万円
発 送 通 信 費	130,000	(14,910) 165,180	216,000	
人 件 費	82,150	83,660	130,000	1万円×12回+0.5万円×2回
事 務 費	40,000	59,000	50,000	
そ の 他	5,000	0	5,000	
合 計	1,237,150	(1,496,073) 1,437,739	1,732,000	
損 益 金	3,810	(△477,564) △419,230	△446,400	
次 年 度 繰 越 金	1,105,269	(623,895) 682,229	235,829	

( )内71年度未払金を表わす。

△印は支出超過を表わす。



〔Ⅱ〕 原 価

摘 要 \ 年 度	1965年度		1966年度		1967年度		1968年度		1969年度		1970年度		1971年度	
	金 額	%	金 額	%	金 額	%	金 額	%	金 額	%	金 額	%	金 額	%
直接出版費	544,738	66.3	404,762	57.9	503,682	47.4	580,802	56.0	787,935	65.7	743,068	60.8	(962,233) 918,809	(64.3) 63.9
間接出版費	277,505	33.7	294,445	42.1	558,695	52.6	455,325	44.0	410,340	34.3	480,029	39.2	(533,840) 518,930	(35.7) 36.1
年間発行部数	4980部		5073部		5251部		5400部		5490部		5260部		5425部	
月平均発行部数	415部		423部		438部		450部		457部		438部		452部	
1冊の原価	165.11円		137.83円		202.32円		191.87円		218.26円		232.53円		275.77円	

\* 71年度内に16=6が刊行されなかったため、未払いとなった経費を加えたのが( )内の数字です。

〔Ⅲ〕 購 読 者 内 訳 ( ' 7 1 年 1 0 月 3 1 日 現 在 )

摘 要 \ 年 度	1965年度	1966年度	1967年度	1968年度	1969年度	1970年度	1971年度
	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)
個人会員	211	228	238	228	224	198	220
機関会員	176	189	200	182	189	221	205
外国会員	1	1	5	5	5	4	5
寄贈交換	0	6	7	9	10	5	5
商 社	0	0	0	16	4	4	29
在 庫	27	10	10	11	18	3	6
合 計	415	434	460	450	450	435	470

〔Ⅳ〕 掲 載 内 容

年 度	1965年度		1966年度		1967年度		1968年度		1969年度		1970年度		1971年度	
	( Vol.3 ~ 4 )		( Vol. 5 ~ 6 )		( Vol. 7 ~ 8 )		( Vol. 9 ~ 10 )		( Vol. 11 ~ 12 )		( Vol. 13 ~ 14 )		( Vol. 15 ~ 16 )	
	頁数	%												
論 文	379	39.0	409	50.0	344	25.7	476	51.1	494	44.8	504	45.1	637	43.7
講 義 ノ ー ト	200	20.5	64	9.4	145	10.8	76	8.2	30	2.7	35	3.1	61	4.2
研究室だより	103	10.6	( 108 )											
基研研究会報告	115	11.8	124	18.2	639	47.7	101	10.8	228	20.7	236	21.1	174	11.9
公 開 質 問	6	0.6												
ひ ろ ば	34	3.5	7	1.0	7	0.5	13	1.4	11	1.0		9.2		
資 料	40	4.1	9	1.3	89	6.6			123	11.2	103	9.2	105	7.2
海 外 通 信	26	2.7	12	1.8	21	1.5	5	0.5			4	0.3	2	0.1
ニュース etc	70	7.2	57	8.3	95	7.2	63	6.7	65	5.7	73	7.0	25	1.7
プレプリント案内							45	4.8	42	3.8	27	2.4	58	4.0
掲 示 板							24	2.6	37	3.4			18	1.2
編 集 後 記													18	1.2
大 学 特 集							40	4.3	36	3.3			48	3.3
若手夏の学校													9	0.6
拡大編集会議													9	0.6
境界領域特集													137	9.4
物性研研究会報告													157	10.8
解 説							90	9.6						
我国の物性物理の研究体制について他									37	3.4	79	7.0		
懸賞論文入選発表											7	0.6		
合 計	( 948 ) 973   100		( 666 ) 682   100		1340	100	933	100	1103	100	1115	100	(1284) 1458	100
月 平 均 頁 数	( 79 ) 81.1		( 55.5 ) 56.8		111.6		77.7		91.9		92.9		( 107 ) 121.5	

\* ( ) は物性研究刊行会負担分

〔V〕 収支決算の推移

収入の部	(a) 1965年	(b) 1966年	(c) 1967年	(d) 1968年	(e) 1969年	(f) 1970年	(g) 1971年	(b)-(a)	(c)-(b)	(d)-(c)	(e)-(d)	(f)-(e)	(g)-(f)
個人会員	336,143	349,658	483,990	436,235	424,195	393,340	339,447	13,515	134,332	-47,755	-12,040	-30,855	-53,893
機関会員	556,800	586,500	620,275	825,900	535,000	761,440	549,140	29,700	337,75	205,625	-29,090	226,440	-212,300
商社			85,940	224,280	116,840	90,900	91,680		85,940	138,340	-107,440	-25,940	780
外国会員	5,228		236,43	20,273				-5,228	236,43	-33,70	-202,73		
預金利息	4844	8,754	18,135	109,86	36,837	41,150	38,242	39,10	93,81	-71,49	25,851	4,319	-2,908
その他						1,160						1,160	-1,160
合計	903,015	944,912	1,231,983	1,517,674	1,112,872	1,287,996	1,018,509	41,897	287,071	285,691	-40,4802	175,124	-269,487

支出の部	(a') 1965年	(b') 1966年	(c') 1967年	(d') 1968年	(e') 1969年	(f') 1970年	(g') 1971年	(b')-(a')	(c')-(b')	(d')-(c')	(e')-(d')	(f')-(e')	(g')-(f')
印刷費	54,4738	40,4762	50,3682	58,0802	78,7935	74,3068	91,8809	-13,9976	98,920	77,120	207,133	-44,867	175,741
発送通信費	118,935	120,030	224,175	161,125	121,565	116,834	165,180	1,095	104,145	-63,050	-39,560	-4,731	48,346
編集費	107,800	123,300	155,200	203,400	189,500	227,360	211,090	15,500	31,900	48,200	-12,900	37,860	-16,270
人件費	48,370	49,700	81,500	82,150	82,175	82,150	83,660	1,330	31,800	650	25	-25	1,510
事務費	2,400	1,425	97,820	その他480 8,170	その他300 16,800	その他6,160 47,525	59,000	-975	96,395	480 -89,650	-180 8,630	5,860 30,725	-6,160
合計	82,2243	69,9217	1,062,377	1,036,127	1,198,275	1,223,097	1,437,739	-123,026	363,160	-26,250	162,148	24,822	21,4642
損益金	80,772	245,695	169,606	481,547	-85,403	64,899	-41,9230	164,923	-76,089	311,941	-56,6950	150,302	-48,4129
次年度繰越金	225,115	47,0810	640,416	1,121,963	1,036,560	1,101,459	682,229						

## 編集部より

最近、読者の方から英文で投稿してもよいかと質問が寄せられました。物性研究誌をできるだけ安く購読していただくために、印刷はタイプ式で行っており、校正も一人でやっています。従って、長い英文にはどうしても誤りが多く出ます。たゞ、普通のアブストラクト程度の長さの英文であれば、なんとかできます。そこで、英文で作成された論文の主旨を速報するために、そのアブストラクトだけ物性研究に載せていただくのもよろしいです。

次にプレプリント案内の充実化をはかるために、プレプリントを受け取られた方だけでなく、プレプリントを作製された方も、リストを物性研究に投稿していただきたいのです。広い範囲に公平に情報がゆきわたるように物性研究が利用できれば幸いです。



## 編 集 後 記

「情報化社会」，「情報革命」，「情報管理」等々，情報と名の付く情報までもが氾濫している世の中で，科学の領域も又その波に洗われ，増大する論文にどう対処するのかという事が真剣に考えられる様になりました。今月号の編集会議では，各地編集員からの提案もあり，この問題について色々議論されました。本誌としては，先ずアンケート活動からこの問題に取り組む事になりましたが，会議での議論の一端を紹介しますと――

「本当にどれ程困っているのか」「経済的に困るのは事実だが，むしろ図々しくなって論文を読まなくなり，かえって精神衛生上好ましい面もある。」「増大して困るというのは，読まねばならないという義務感があるからではないか。その義務感はどこからくるのか」「外国雑誌のレフェリーは，レフェリーにもよるが論文のciteについては割とルーズである。むしろその点は日本人の方が厳しい」……等々議論百出でこの問題の多様性が感じられました。

そもそも，何故に論文を書くのか？

研究成果を公表する事は，その成果が人類共有の財産である限り必要であろうが，現在では論文の数によってのみ研究者の能力が測られるという謂ゆる業績主義から，成果の内容の如何にかかわらず論文を作るという気運が強いのではないだろうか。論文の長さ又然りである。論文の数が増して，どれだけ急速に自然認識が進んだのか。本当に，自然認識の本質的な進歩が，人間の理解能力を越えたら大変な事だ。

なにはともあれ，現実には増大する情報にどう対処するかは一つの大きな問題ではある。でも，増大に拍車をかけている“情報”を作り出す方の問題もあるのではないだろうか？

( T . O )

物 性 研 究

第 17 卷 第 2 号  
1971 年 11 月 20 日 発行

発行人	松 田 博 嗣 京都市左京区北白川追分町 京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内
印刷所	昭 和 堂 印 刷 所 京都市上京区上長者町室町西入 TEL (441)1659 (431)4789
発行所	物性研究刊行会 京都市左京区北白川追分町 京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内

## 購読規定

### 個人購読

1. 会費：当会の会費は前納制をとっています。したがって、3月末までに年間の1年間分会費を御支払い下さい。なお新規購読の場合は下記の会費以外に入会金として1,000円を支払い下さい。

#### ※ 1年間の会費

1st volume	9,600円
2nd volume	9,600円
計	19,200円

2. 1年分までのお支払いが困難の向きは1 volume 分ずつでも結構です。
3. 支払いの際の注意：なるべく振替用紙をご利用の上御納入下さい。なお通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。
4. 雑誌購読者以外の代理人が購読料を送金される場合、必ず購読者本人の名前を明記して下さい。
5. 誌代の支払遅滞の場合：当会の原則としては、正当な理由なく2 Vol. 以上の誌代を滞納された場合には、送本を停止することになっていきますので御留意下さい。
6. 一括送本を受ける場合：個人購読中に大学等で一括配布を受ける様になった場合は、必ず「個人購読中止」「一括配布希望」の通知をして下さい。逆の場合も同様です。
7. 送本先変更の場合：住所、勤務先の変更等送本先が変わった場合は、必ず送本先変更届を提出して下さい。

### 学校、研究所等機関購読

1. 会費：学校、研究所等での購読及び個人であっても公費払いのときは機関会員とみなし、代金は、1 Vol. 1,800円です。この場合、入会金は不要です。学校、研究所の会費の支払いは後払いでも結構です。しかし購読申込みをされる時に支払いに必要な請求見積、納品書各何通必要なのかをお知らせ下さい。なお、当会の請求書類では支払いができない様でしたら、貴校貴研究機関の請求書類を送付して下さい。
2. 送本中止の場合の連絡：発行途中にあるvolume の購読途中中止は認められません。購読中止される場合には、1ヶ月前ぐらいに中止時期を明記して「購読中止届」を送付して下さい。



## 物 性 研 究 17-2 (11月号) 目 次

- 二次の order の物理的自由度についての一考察……………池田 恵… 131
- 規則正しい構造をもつた分子系の HMO 理論における  
固有値問題 ……………竹山尚賢… 138
- 単純 HMO 理論における固有値問題 (補足) ……………竹山尚賢… 151
- A Comment on Experimental Results of Dilute Au(V) Alloys  
……………倉田泰幸… 163
- Two Band Approximation による不規則格子の電子状態Ⅰ  
—ホール効果と熱起電能— ……………清水立生, 渡辺一郎… 169
- プレプリント案内 …………… 176
- 掲 示 板 …………… 180
- ニュース, 人のうごき …………… 181
- '71年度決算及び'72年度予算報告 …………… 182
- 編集部より …………… 188
- 編 集 後 記 …………… 189
- 基研研究会報告「分子結晶における相転移と分子運動」…………… C1



## 物 性 研 究 17-2 (11月号) 目 次

- 二次の order の物理的自由度についての一考察……………池田 恵… 131
- 規則正しい構造をもつた分子系の HMO 理論における  
固有値問題 ……………竹山尚賢… 138
- 単純 HMO 理論における固有値問題 (補足) ……………竹山尚賢… 151
- A Comment on Experimental Results of Dilute Au(V) Alloys  
……………倉田泰幸… 163
- Two Band Approximation による不規則格子の電子状態Ⅰ  
—ホール効果と熱起電能— ……………清水立生, 渡辺一郎… 169
- プレプリント案内 …………… 176
- 掲 示 板 …………… 180
- ニュース, 人のうごき …………… 181
- '71年度決算及び'72年度予算報告 …………… 182
- 編集部より …………… 188
- 編 集 後 記 …………… 189
- 基研研究会報告「分子結晶における相転移と分子運動」…………… C1